

パンドゥニア - シンプルな国際語

sal, dunia! - こんにちは世界!

パンドゥニア語について学ぶへようこそ!



パンドゥニアとは?

パンドゥニアは国際補助語です。それは他の共通言語で話せないときに、人々が互いに話すために使う簡単な言語です。多言語の世界で他の言語を補うことを目的としています。

パンドゥニアは人工言語です。英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語、ヒンディー語などの自然言語よりも簡単かつパンドゥニアの学習は誰にとっても簡単です。その言葉は世界のすべての大陸とすべての文化の多くの言語から借用されています。



1. 基本事項

パンドゥニアの基本的な規則は次の通りです。（詳しい説明は、ドキュメントの後部で追って行なわれます）

(1) 世界的な語彙

バンドゥニアは公平な国際語です。国際的に使われている語彙が、地域を問わず、世界中からバンドゥニアに取り入れられています。発音と綴りは、バンドゥニアの体系と噛み合うように微調整されます。合成語をつくる際には、規則の第10条が適用されます。

(2) 綴りと発音

綴りは単純で規則的です。どの単語も、書かれた通りに発音されます。ほとんど全ての文字（および、文字の組み合わせ）は、いつでも一種類の

(3) 規則的なアクセント

単語の音節数が1つまたは2つであるときには、最初の音節にアクセントが置かれます。単語の音節数が3つ以上であるときには、最初から2番目の音節にアクセントが置かれます。

(4) 代名詞

人称代名詞は次の通りです。

mi 私, **tu** あなた, **da** それ、そのひと（性を区別しません）, **mimen** 私たち, **tumen** あなたたち, **damen** それら、そのひとたち。

所有形は次の通りです。

mi su 私の, **tu su** あなたの, **da su** それの、そのひとの, **mimen su** 私たちの, **tumen su** あなたたちの, **damen su** それらの、そのひとたちの。

疑問の代名詞は次の通りです。

ke 何、誰, **ke su** 何の、誰の。

(5) 名詞

名詞にはひとつの語形しかなく、いつも同じ形です。（英語で複数形の-(e)sを名詞につけるような）数の変化はありませんし、（英語でI が me になったりするような）格の変化もありません。名詞の数について伝えるときには、数詞や数量詞を使用します。名詞の役割を表すには、語順に頼るか、前置詞を使います。

(6) 数詞

基数詞は次の通りです。

0 **siro**, 1 **un**, 2 **du**, 3 **tri**, 4 **nelu**, 5 **lima**, 6 **luka**, 7 **cheti**, 8 **bati**, 9 **tisa**, 10 **des**.

11 **des un**, 12 **des du**, 13 **des tri**,

20 **du des**, 30 **tri des**, 40 **nelu des**,

100 **un sento**, 200 **du sento**, 300 **tri sento**,

1000 **un kilo**, 2000 **du kilo**, 3000 **tri kilo**,

順序を表すには **me** を使います。

un me (一番目、最初), **du me** (二番目), **tri me** (三番目),

(7) 修飾

形容詞と副詞は同じ語形で表します。形容詞は修飾先の名詞よりも前に置かれ、副詞は修飾先の動詞よりも前に置かれます。

un suga loge - (一回の) 素早い発言。

tu suga loge. - あなたは素早く話します。

(8) 動詞

動詞が人称、数、時制によって形を変えることはありません。時間を表現するときには、補助動詞を使うことができます。

- **zai** は現在進行中の出来事を表します。
- **le** は完了してしまった出来事が現在の状況に影響を残していることを表します。
- **pas** は完了してしまった出来事のうち現在の状況に影響していないものを表します。
- **sha** は未来の出来事を表します。

(9) Word order

語順は SVO（主語→動詞→目的語）です。疑問文などでも同様の語順が用いられます。

受動態の文をつくるには、**be** という補助動詞を用います。不定の人称を表す **men** を使っても似たような意味を表現できます。

pandunia be loga. - パンドゥニアが話されている。

men loga pandunia. 人がパンドゥニアを話す。

他動詞の目的語のあとに別の動詞を続けることができます。この構文をパンドゥニアでは「ピポット構造」と呼びます。

mi ching. - 私はお願いをします。

mi ching tu loga pandunia. - あなたがパンドゥニアを話すように私は（あなたに）お願いをします。

文脈から明らかである場合などには、代名詞を省略しても構いません。

mi ching tu loga pandunia. → **ching loga pandunia.**

-パンドゥニアで話すようにお願いします。（=パンドゥニアで話してください。）

(10) 語形成

パンドゥニアの語形が変化するのは、異なる語義に変化する場合のみです。文法的な役割が違うことを理由に語形が変化することはありません。複合語をつくるには、語源となる語彙を組み合わせます。もっとも中心的であると考えられる語ほど後ろに配置されます。

posta (“メール”) + **kase** (“箱”) = **posta kase** (“メールボックス”)

(メールボックスは「ボックス」の一種であると考えられるので、**kase**が後ろに来る。仮に**kase posta**という表現があるとすれば、「箱に関係

2. つづり

パンドゥニアは、ふたつの意味で表音的です。

1. 単語を見れば、必ず発音がわかる。
2. 発音を聞けば、ほぼ確実に綴りがわかる。（ほぼ、というのは、外来の人名などが存在するためです。）

それぞれの文字に割り当てられた発音といくつかの規則を学習すれば、それだけでパンドゥニアを発音することができます。

基本的なラテン文字

パンドゥニアを書くときには、ラテン文字を使います（英語を書くときに使う文字です）。フランス語などでは字上符（ダイアクリティカルマーク）のため、ほとんどの国と地域では、コンピュータで入力したり、印刷したり、実際に使用してみるにあたって、苦勞する必要がありません。

A B C h D E F G H I J K L M N O P R S h T U V X Y Z

音声の表記に関する註釈

このページでは、文字の発音を示すのに、IPA（国際音声記号）を使用します。文字を[角括弧]や/スラッシュ/で囲うことで、発音を表現します。

[角括弧]は、実際の言語音を書き表すときに用います。たとえば、[r]と[ɹ]は二種類のr的な発音を表します（それぞれ、ふるえ音とわたり音）しかし、パンドゥニアでは、[r]と[ɹ]は区別されず、ひとつの音として扱われます。このような言語上の「ひとつの音」（「音素」と呼ばれましたが、パンドゥニアにおいては[r] or [ɹ]のどちらの音が発されていたとしても、/r/というひとつの音素として解釈されるのです。

以上のことを記号で表すと、/r/ = [r] ~ [ɹ]のようになります。

発音

パンドゥニアの音声体系は独自のものであり、綴りの体系は概ねヨーロッパやラテンアメリカのものに類似しています。

パンドゥニアの音声と綴り字との対応を、下の表に網羅します。

	唇音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	b p	t d	ch j	kg	
摩擦音	f	sz	sh		h
鼻音	m	n		ng	
接近音		l			
ふるえ音		r			
半母音	v		y		
狭母音	u		i		
中央母音	o	(ɹ)	e		
広母音		a			
	後舌	中舌	前舌		

母音

バンドゥニアには、5種類の母音があります。綴りの上では、それぞれ a, e, i, o and u と表現されます。

下の表は、それぞれの母音について、IPA（国際音声記号）で発音を表記したものです。

- a = [a]
- e = [e]
- i = [i]
- o = [o]
- u = [u]

加えて、「シュワー（あいまい母音）」と呼ばれるものも使用することができます（IPAでは [ɤ] と書く音です）。この母音は、発声するのがと実際には、この音は綴りには表れませんし、発音されないことも珍しくありません。

バンドゥニアにこの音が入り入れられたのは、発音の難易度を低めるためです。音の並びが発音しづらく感じられたときには、子音の後にシュワーを入れようとする場所は人によって異なるでしょう（たとえば、英語の話者は /str/ という音に馴染みがありますが、日本語の話者にとってシュワーは、子音と子音の間や、語末の子音の後に加えることができます。skol を発音するときには、/skol/ と読んでもよいですし、/sɤkol/（子音連続をシュワーで避けた発音）と読んでもいいですし、/sɤkolɤ/（子音連続だけでなく、語末の子音にもシュワーを加えた発音）。いずれにしても、聞くぶんにはほとんど同じような音に聞こえるはずで、ということも、シュワーは必ず短く読まれるし、アクセントを置かれる（どのような位置にシュワーを入れても、単語のアクセントが変わることはありません。）シュワーを入れるのも省くのも各自の自由です。楽

半母音

半母音は、母音と似たような発音ですが、音節境界をつくるときには子音のように振る舞います。バンドゥニアには、2種類の半母音がありますと v です。どちらも音節の始めにしか現れず、かならず母音が後に続きます。

- v = [w] ~ [ɤ] ~ [v]
- y = [j]

また、バンドゥニアには、母音に母音が後続する場合（au, eu, ou, ai, ei, oi）があります。二重母音として読んでも構いませんし、単なる母音と

子音

バンドゥニアには 19 種の子音があります。それぞれの音を綴るときには、ラテン文字（またはその組み合わせ）を用います。ほとんど全ての文字は、英語（や、日本語を綴るときにローマ字）と似た音で発音されます。

ひとつの音素に複数個の発音が許容されているときは、チルダ (~) でそれぞれの発音を繋いであります。

- b = [b]
- ch = [tɤ]
- d = [d]
- f = [f]
- g = [g]
- h = [h] ~ [x]
- j = [dɤ]
- k = [kɤ] ~ [k]
- l = [l]
- m = [m]
- n = [n] ~ [ɤ]
- p = [pɤ] ~ [p]
- r = [r] ~ [ɤ]

- s = [s]
- sh = [ʃ]
- t = [tʃ] ~ [t]
- z = [z] ~ [dz]

外来表現の綴りと発音

上で挙げたもの以外にも、外来の表現のためだけに使用できる文字（や、文字の組み合わせ）があります。外来の表現というのは、人名や地名など

- c = [ts]
- kh = [x]
- gh = [ɣ]
- ph = [f]
- bh = [β]
- q = [q]
- qh = [χ]
- rh = [ʀ] ~ [ʁ]
- th = [θ]
- dh = [ð]
- zh = [ʒ]
- w = [w] ~ [ʍ] ~ [v]

これらの文字は、ローカルに使用されることを想定しています。このような文字を採用するのは、各地域の言語における名前を入力するにあたり、個別の文字の発音がわからなくても大丈夫です。c, q, w はそれぞれ ch, k, and v と読んでも構いませんし、h を含む組み合わせについては、h を無視して発音しても構いません。なので、たとえば、zh を z と読むようなことも、許容されるのです。

実例を挙げてみましょう。ギリシャの首都は現地の言語（ギリシャ語では）“Αθήνα” /aθina/ と呼ばれています。パンドゥニアでは、この名前を“Athina”と綴ります。発音はギリシャ語式に /aθina/ としても構いませんし、単に /atina/ と読んでも構いません。

このほか、以下のような例が考えられるでしょう。 **Khartum** ハルツーム (スーダンの首都)
Rhone ローヌ川 (フランスとスイスを流れる河川)

語の構造

パンドゥニアの構造は比較的単純です。音節の構造は (C)(L)V(S)(N) です。ここにおいて、

- C は子音
- L は流音 (l または r)
- V は母音
- S は半母音 (y または v),
- N は鼻音 (m, n, または ng), 流音 (l or r), 摩擦音 (f, s, sh または h) を表します。
- (括弧)で括られた部分は無くても構いません。

下のテーブルは、いくつかの音節の例（全て実在する単語です）を、軽いものから順に並べたものです。

Syllable	(C)	(L)	V	(S)	(N)	Word meaning
a			a			‘○○に、○○で’
ai			a	i		‘愛、愛する’
an			a		n	‘反○○、逆○○’
pa	p		a			‘父’
pai	p		a	i		‘パイ’

Syllable	(C)	(L)	V	(S)	(N)	Word meaning
pan	p		a		n	‘全て’
plan	p	l	a		n	‘計画’

借用語の語形の調節

一般に、パンドゥニアに新しい語彙が取り込まれる場合には、パンドゥニアの発音に合わせて語形に変更を加えます。固有名詞であっても変更の

一般的な語彙

一般的な語彙とは、たとえば、あるグループの成員を表すものです。「犬」は一般的な語彙ですが、「サム」は違います（固有名詞です）。

一般的な語彙は、ふつうの語彙構造に従わなければならない、通常の発音のみを割り当てられます。（したがって、zh や c などの音を、一般的な語彙に割り当てることは許容されません。）

パンドゥニアの語彙は、たいてい英語における（語源の同じ）単語と比べて、音韻構造が単純です。単語の始め、終わり、その中間のいずれに属していても、したがって、パンドゥニアでは、stadium は **estade** になり、act は **ate** になり、saint は **sante** になります。また、単語の終わりに閉鎖音が立派な **supe** になります。

固有名詞

固有名詞と、滅多に使用されない一般的な語彙は、ふつうの語彙よりもやや複雑です。通常はパンドゥニアの語彙に現れないような音素を使用する。たとえば、Smith（「スミス」。人名）を **Smith** と書けば、構造が複雑になるうえに th という外来の音を含むことになりませんが、そのようにすれば、他の言語圏に属するひと（今回は日本語話者など）は、この名前を正確に発音できないことが多いことでしょう。したがって、固有名詞についても、パンドゥニアの音声体系にしたがって表現するのがよいでしょう。

大文字と小文字

パンドゥニアには、大文字と小文字の使いわけがあります。

大文字が必須であるのは、国際的に採用された一部の頭字語を書く場合のみです。というのも、この事例に関しては、大文字と小文字を区別しない。たとえば、1 mm (**un milimetre**) means '1ミリメートル (1/1000 メートル)' を表しますが、1 Mm (**un megamitre**) は '100万メートル' を表します。これ以外については、いかなる場所であっても小文字を使って構いません。（たとえば、文の最初であっても大文字に大文字が不要であり、大文字の用途について細かい規則を定める必要がないことには、3つの理由があります。

1. 綴りは発話を表すものであるけれど、音声での会話には「大文字」は存在しない。そうした「問題点」があるにもかかわらず、口頭での発話では大文字が必須である。
2. 世界中の文字を見てみても、ほとんどは「大文字/小文字」といった区別をしていない。
3. 小文字だけを使うほうが単純である。大文字を使うときのための規則をわざわざ設けなくてもよい。

固有名詞

書き手の好みによっては、固有名詞を大文字で始めてもよいです。家族名（姓）を書く場合には、語頭から語末までの全てを大文字で書いてもよい。ただし、（姓についてこのような書きかたをすると何が嬉しいのか、と思うかたもいらっしゃるかもしれません。人名には言語ごとにさまざまなフォレンジングがあり、しかしながら、どのような名前も、一貫して小文字で書いても構いません。

人名の書きかた（例）：(1) ludoviko lazaro zamenhof, edgar de val, mizuta sentaro（小文字のみ）(2) Ludoviko Lazaro Zamenhof, Edgar de Val, Mizuta Sentaro（大文字で書きはじめる）(3) Ludoviko Lazaro ZAMENHOF, Edgar de VAL, MIZUTA Sentaro（大文字で書きはじめ、姓を大文字で統一する）

頭字語

単語の最初の一文字づつを取ってつくられた単語（ASEAN, EU, NAFTA, UN など）を綴るときには、必ず大文字を用います。それ以外のパターンの単語を綴るときには、大文字と小文字の組み合わせを使っても構いません。たとえば、ロシア語の“Glavnoye Upravleniye Lagerey”を縮めて、**GULag**とすることができます。

大文字は、国際単位系を表す場合にも使用されます。たとえば、10 Mb (des megabite), 100 GB (sento gigabaite), 2 mm (du milimetre), 1 kJ (un kilojul)。

音節の区切りを表す文字

単語を音節ごとに区切って表現するときには、「-」を使います。たとえば、**bus, ka-fe, hu-mor, pos-te, hi-drar-gen-te** のようになります。

約物

«. » どんな文であっても、ピリオドで終わることができます。

« ? » 疑問文の文末では、代わりに疑問符を使用することもできます。

« ! » 感嘆符は、発言の音の大きさを表したり、強調したりする際に使われます。

« ... » 三点リーダーは、文が途中で途切れる場合や、不確かさを表現する場合などに用います。

« : » コロンは、説明や引用や一覧を書き始めるときに用います。

« , » コンマは小休止を表すときや、節または一覧の中の要素を区切るときに使われます。

バンドゥニアでは文頭に大文字を用いないので、文と文とを区切る際に（境目をはっきりさせるために）ふたつ以上のスペースを開けてもよいです。具体的には、(1) 約物の後に2つのスペースを入れるか、(2) 約物の前後にひとつづつのスペースを入れることができます。

(例)

(1) sal! tu hau, he? mi vol go a kafekan. tu vol lai kon mi, he?

(2) sal ! tu hau, he ? mi vol go a kafekan . tu vol lai kon mi, he ?

フォーマルでない場においては、顔文字や絵文字などを文末に置くこともできます。たとえば、:) (笑顔) や:((悲しい顔) など。

mi visi tu :) - 見えますよ (にこにこ)

tu no visi mi :(- 見てくれてない (しょんぼり)

3. 品詞

品詞は文法上の性質や振舞いに基づく語の分類です。品詞は大きく分けて内容語と機能語に分類されます。内容語はほとんどの情報と意味を伝、機能語は文法に必要なものです。内容語がなければ意味のあることを言えませんが、特に長い文では内容語をまとめるために機能語が必要です。

バンドゥニアの主な内容語は名詞、動詞、修飾詞です。同様に主な機能語は代名詞、限定詞、前置詞、後置詞です。

大半のバンドゥニアの単語の品詞は文脈に依存します。

例えば ai は動詞または名詞または形容詞になれます。

mi ai tu. - 私はあなたに恋しています。(動詞)

tu gamo mi su ai. - あなたは私の恋を感じます。(名詞)

mi kitabu un ai anjil. - 私は恋文を書きます。(形容詞)

4. 代名詞

人称代名詞

代名詞は名詞や名詞句の代わりとして使うことができるものです。

Singular	Plural
mi 私	mimen 私たち
tu あなた	tumen あなたたち
da 彼、彼女、それ、その人	damen 彼らは、彼女らは、それらは、あの人たちは

どの名詞にも性の区別はありません。バンドゥニアでは、どのような性の生物（や非生物）であっても、同じ代名詞で指し示すことができます。が使われます。バンドゥニアは、全ての者たちを平等に扱うのです。

バンドゥニアには、「私たち」にあたる表現がみつあります。**tumimen**は包摂的な(=聞き手を含む)代名詞で、「私、あなた、そして他の」は包摂性を問わずに使える代名詞です。

所有代名詞(「私の」「あなたの」など)をつくるときには、代名詞の次に **su** という単語を置きます。

Singular	Plural
mi su わたしの	mimen su わたしたちの

Singular	Plural
tu su あなたの	tumen su あなたたちの
da su かれの	damen su かれらの

再帰代名詞

文の目的語が主語と同じ場合に使われます。日本語の「自身」という言葉と同じように、一人称（私自身）、二人称（あなた自身）、三人称（かれ自身）を **se** を使って表現します。

se – 自身、自分

mi visi se. – 私は自分を見ます。

da visi se. – 彼女/彼/その人は自身を見ます。

mimen visi se. – 私達は自身を見た。

shau mau ya lingue se. – 小さな猫は自身(の体)を舐めた。

「お互い」にあたる表現は **semen** を使ってつくります。

semen – お互い

mi i tu visi semen. – 私とあなたはお互いを見る。

mimen visi semen. – 私たちは互いを見つめあう。

指示代名詞

指示代名詞は対象を特定する際に使われます。バンドゥニアでは、指し示す対象と話し手との距離に応じて、以下のような指示代名詞を使い分けます。

ye – この (近距離)

vo – その、あの (遠距離)

la – 前述の (既知)

近くにあるものを指し示すには **ye** を使います。遠くにあるものを指し示すには **vo** を使います。

mi vol vo mau. – 私はあの猫が欲しいです。

mi vol ye buku. – 私はこの本が欲しいです。

は、名詞に係って「この、あの、その」にあたる表現をつくるだけでなく、単独で「これ、あれ、それ」にあたる表現をつくる場合もあります。

ye e hau. – これは良い。

vo e dus. – あれは悪い。

tu vol ye, he? – あなたはこれが欲しいの？

no, mi vol vo. – いや、私はあれが欲しい。

指示代名詞の後に動詞が続く場合は、動詞の前に **ya** (否定文の場合には **no**) を置く必要があります。

ye ya gani i vo no gani. – こいつは歌うけど、あいつは歌わない。

(**ye** は「これ」と「この○○」を兼ねるので、**ya** を使わないと文の解釈が難しくなります。たとえば、上の例で **ya** を使わなかった場合、**ye gani** 「この歌」と紛らわしいです)

上に挙げたふたつの代名詞 (**ye**, **vo**) は、まだ話題に上っていないものを取り上げるときに使われます。それに対して、**la** は既に会話中で言及されたものや、聞き手が既に知っているものを指すときなどに使われます。

mi ha un mau i un vaf. la vaf e dai. – 私は猫一匹と犬一匹を飼っています。その犬は大きいです。

指示代名詞の抽象的用法

指示代名詞は人や物だけでなく文などを指すこともできます。**la** は既に言われてしまったことを指し、**ye** は今まさに言っている途中のことを指し、これはこれから言おうとしていることを指します。

ye jumla e korte. – この文は短い。 **mi seme vo: mi ai tu.** – 私が言いたいのはこういうことです：私はあなたを愛していると。(=私はあなたを愛しています。それが私の言いたいことです。)

上の例では、**vo** は自身の直後にある文 (**mi ai tu**) の内容を指し、**la** は自身の直前にある文 (**mi ai tu**) の内容を指しています。

疑問代名詞

ke は汎用の疑問代名詞です。それは「誰」と「何」を意味します。

ke? - 「誰?」または「何?」

ke は形容詞の疑問代名詞です。「どの」を意味します。

ke she? - 何?(どちらのもの?)

ke jen? - 誰?(どちらの人?)

ke zaman? - 何時に?

ke mode? - どのよう?

副詞の疑問代名詞も **ke** です。「どのように」、「どのくらい」を意味します。

ke nova? - どれくらい新しい?

ke koste? - どれくらい(費用が)かかる?

ke poli? - いくつ、いくら(どれくらい多い)?

ke dai? - どのくらい大きい?

ke shau? - どのくらい小さい?

tu ha ke dai di mau? - あなたはどのくらいの大きさの猫を飼っていますか?

5. 名詞

活用はありません

名詞はものに名前を付ける品詞です。他の品詞同様に活用はありません。単数/複数、定型/不定型、どのような場合でも同一の単語が使われます。

ite - 石、その石、複数の石、その複数の石

meza - テーブル、そのテーブル、複数のテーブル、その複数のテーブル

kursi - 椅子、その椅子、複数の椅子、その複数の椅子

sui - 水

数量の表し方

数が1つであってもたくさんであっても影響を受けません。必要に応じて数詞で表す事も出来ます。

kursi - 椅子、複数の椅子

un kursi - 1つの椅子

du kursi - 2つの椅子

tri kursi - 3つの椅子

poli kursi - たくさんの椅子

複数あることを表すときには、畳語を用いることもできます。つまり、名詞を二回繰り返すことで、複数形になるのです。

kursi kursi - 複数の椅子

buku buku - 複数の本

shan shan - 山々

畳語を用いる場合、数量を表す **poli** などの語とは併用しないほうがよいでしょう。というのも、畳語によって複数であることが明らかである場合、**poli buku buku** などと言わなくても、**poli buku** だけで複数あるということが明らかになるのです。

固有名詞

固有名詞は、個人や土地などを表すための名詞です。

人に対して敬意を表すために、**si** という語を名前に前置することができます。si によって、発話を丁寧にすることができます。

フォーマルな場でもそうでない場でも si を使用することができます。年齢や属する集団、性などを問わず、あらゆるひとに対して使用することができます。敬意を表すための方法は文化圏ごとに異なります。ある文化圏（たとえば、日本語圏）などに於いては、敬称をつけずに人を呼ぶのは、丁寧さを一貫して使用するのがお勧めです。

si はフルネームの前に置いてもよいですし、姓や名の片方に前置しても構いません。

si Ishikura Icuki - 石倉いつきさん、石倉いつき氏

si Ishikura - 石倉さん、石倉氏

si Icuki - いつきさん、いつき氏

6. 数詞

基数

1桁	10以降	20以降	30以降
0 siro	10 (un) des	20 du des	30 tri des
1 un	11 des un	21 du des un	31 tri des un
2 du	12 des du	22 du des du	32 tri des du
3 tri	13 des tri	23 du des tri	33 tri des tri
4 nelu	14 des nelu	24 du des nelu	34 tri des nelu
5 lima	15 des lima	25 du des lima	35 tri des lima
6 luka	16 des luka	26 du des luka	36 tri des luka
7 cheti	17 des cheti	27 du des cheti	37 tri des cheti
8 bati	18 des bati	28 du des bati	38 tri des bati
9 tisa	19 des tisa	29 du des tisa	39 tri des tisa

1桁	2桁	3桁	4桁
1 un	10 (un) des	100 (un) sento	1000 (un) kilo
2 du	20 du des	200 du sento	2000 du kilo
3 tri	30 tri des	300 tri sento	3000 tri kilo
4 nelu	40 nelu des	400 nelu sento	4000 nelu kilo
5 lima	50 lima des	500 lima sento	5000 lima kilo
6 luka	60 luka des	600 luka sento	6000 luka kilo
7 cheti	70 cheti des	700 cheti sento	7000 cheti kilo
8 bati	80 bati des	800 bati sento	8000 bati kilo
9 tisa	90 tisa des	900 tisa sento	9000 tisa kilo

これ以降の数も同様の方法でつくられます。

10'000 = un des kilo

100'000 = un sento kilo

1'000'000 = un mega

10'000'000 = un des mega

100'000'000 = un sento mega

1'000'000'000 = un giga

100以降の数字はSI単位系（国際単位系）をもとにした語形になっています。この単位系は、世界中のさまざまな言語で、科学用語として取り入

接頭辞	略記	指数表記	十進表記
kilo	k	10^3	1'000
mega	M	10^6	1'000'000
giga	G	10^9	1'000'000'000
tera	T	10^{12}	1'000'000'000'000
peta	P	10^{15}	1'000'000'000'000'000
exa	E	10^{18}	1'000'000'000'000'000'000
zeta	Z	10^{21}	1'000'000'000'000'000'000'000
yota	Y	10^{24}	1'000'000'000'000'000'000'000'000

（名詞に係る）基数詞

数値は数字や他の数詞で表せます。それらは修飾する単語または句の前に置かれます。

un sing - 1つの星

du sing - 2つの星

tri sing - 3つの星

kam sing - 少しの星

poli sing - たくさんの星

un dai kursi – 1つの大きな椅子
du dai kursi – 2つの大きな椅子
tri hau kursi – 3つの良い椅子

7. 修飾詞

修飾詞は別の単語に品質や説明を追加する品詞の総称です。例えば「良い」、「悪い」、「大きい」、「速い」がそうです。

名詞の修飾

形容詞は名詞を修飾します。通常名詞の前に置かれます。

neu karo – 新しい車
suga karo – 速い車
dai meza – 大きなテーブル
gau meza – (高さが)高いテーブル
hau kursi – 良い椅子

複数の形容詞で同一の名詞を修飾できます。

shau neu karo – 小さい新しい車

動詞の修飾

副詞は動詞または別の修飾詞を修飾する単語です。

副詞は動詞の前に置かれます。

mi hau sona. – 私はよく眠る。
tu hau basha pandunia. – あなたは上手にパンドゥニアを話す。

よく修飾機能語の **di** ははめることができます。構文を明るくします。

tu hau di basha pandunia. – あなたは上手にパンドゥニアを話す。

3.3. その他の修飾詞の修飾

修飾詞はその他の修飾詞を修飾することもできます。例えば副詞の **bas** (十分) は動詞や形容詞を修飾します。

mei jen – 美しい人
bas mei jen – 美しさが十分の人

比較

修飾詞を比較できます。

- **mas** (比較 優位) より優れることを表します。
- **masim** (比較 最上級) 最も優れていることを表します。
- **min** (比較 劣等) より劣ることを表します。
- **minim** (比較 最下級) 最も劣っていることを表します。
- **par** (比較 平等) ほぼ等しいことを表します。

接続語 **ka** は副詞を比較条件に割り当てます。

mi e mas hau ka tu. = 私はあなたよりも優れています。
tu par hau di loga ka mi. = あなたの話し方は私と同じくらい良い。

8. 動詞

動詞は行動や発生を表します。例) 見る、食べる、話す、考える。

動詞は時制や相や敬語や極性などによって変化することがありません。

mi yam la aple. – 私はリンゴを食べる。
mi yam la aple a preden. – 昨日私はリンゴを食べた。
mi dura yam** la aple. – 昨日私はまだリンゴを食べている。

guru yam la aple.** – 先生はリンゴを食べます。
mi no yam la aple.** – 私はリンゴを食べない**。

普通、機能語は主語と目的語を別れます。主語も目的語も内容単語の時に有用です。

uma ya yam la aple. – 馬はリンゴを食べる。

9. 文章

名詞または代名詞の主語

通常、文は主語と述語で構成されます。最も単純な文では主語は名詞または代名詞であり、述語は形容詞または名詞です。

mi hau. – 私は元気です。
da nova. – それは新しい/新品です。
da Sara. – 彼女はサラです。

Verbal predicative clause

主語は名詞だったら、繫辞の動詞の **e** は必要です。

Sara e hau. – サラは元気です。
seku e dai. – この石は大きい。
meza e nova. – このテーブルは新しい/新品です。

Negating the complement

no が追加されると否定文になります。

mi no hau. ~ **mi no e hau.** – 私は気分が優れません。(訳注:「元気がない」では不自然)
da no nova. ~ **da no e nova.** – それは新しくない/新品ではない。
da no Sara. ~ **da no e Sara.** – 彼女はサラ(人の名前)ではありません。

形容詞と主語

同じ事が2つの形容詞または動詞にも言えます。

jun – mei. ~ **jun e mei.** – 若いことは美しい。
nova no lau. ~ **nova no e lau.** – 新しいもの/新品は古くありません。
gani – hau. ~ **gani e hau.** – 歌うことは良いです。

動文

述語は動詞を使えます。それから目的語もあることはできます。

次の文はSVO順です。

mi yam yo aple. – 私はリンゴを食べます。
mi visi tu. – 私はあなたを見ます。

語順を変えるために受動的な機能語を使うことはできます。

tu be visi mi. – あなたは私に見られます。
ban be bake. – パンが焼かれます。

行動を起こす側は前置詞 **de** の有無に関わらず動詞の後に言及できます。(訳注:まだ前置詞の解説はしていないので、この部分は飛ばして後で戻

依存文

基本的な依存文(SOVO)

依存文の語順は次の通りです:

S(主語)-V1(動詞)-O1(目的語)-V2(動詞)-O2(目的語)

O1には2つの役割があります。V1の対象であり、V2のS(主語)でもあります。

mi vol tu yam yo fito. – 私はあなたが野菜を食べることを望みます/要求します。

上の例では **mi vol** の目的語は **tu** です。同時に **tu** は次の述語 **yam yo fito** の主語として機能しています。つまり **tu** は文全体の**依存語**となります。#### 代名詞の省略

特定の文では簡潔にするために代名詞は省略されます。これは特に命令文と要求文で行われます。

mi sual tu basha pandunia. - パンドゥニアを話せますか。

sual tu basha pandunia? - パンドゥニアを話せますか。

mi ching tu lai dom. - 帰ってきてくれませんか。

ching lai dom! - 帰ってきてください!

連続動詞

次の文には動詞が複数使われているものがありますが、それらは全て同じ主題を対象としています。

1. **mi go a dom.** - 私は家に帰ります。
2. **mi bil go a dom.** - 私は家に帰ることができます。
3. **mi vol bil go a dom.** - 私は家に帰ることができることを望みます。(=私は家に帰りたいです)

観察

観察は最も単純な文構成です。聞き手が注目する1つの単語のみで構成されていることがあります。

mau! - 猫だ!

barsha! - 雨が降っている!

11. 単語の構築

パンドゥニアは単語の派生が行えるため、新しい単語を作ることができます。使用される接尾辞のほとんどは、すでに国際的に使用されています。語源の多くは古代ギリシャ語、ラテン語、アラビア語、ペルシャ語、中国語から来ています。2つ以上の単語を組み合わせて**複合語**を作れます。最後の単語は複合語で最も意味のある単語であり、その前に来る単語は最後の単語を修飾するだけです。

例1) **yen sui**(涙)

yen (□)
+ sui (□)

= **yen sui** (□□→□)

例2) **termometr**(温度計)

termi (□□)
+ metri (□□)
+ -r (□□)

= **termimetrir** (□□□)

Prefixes

de-

動詞の意味を逆にする動詞を作ります。否定を意味する単語を作るためのものではありません。

node ~を結ぶ → **denode** ~をほどく

detapa 差し込む → **detapa** 抜く

Suffixes

-bil

可能性を表します。動詞の語尾に連結します。

visibil 表示可能な

-tor ~r

行動を起こす側の名詞を作ります。行動を実行する人、または道具を表します。

loga 話す → **logator** 話す人

lide 導く → **lider** リーダー、先導者

filsofi 思慮する → **filsofir** 哲学者

sapato 靴 → **sapator** 靴職人
muskete マスケット銃 → **musketer** 銃士
kase 箱、レジ → **kaser** レジ係

-ta

抽象的な名詞の多くは -ta で終わります。

dai 大きい → **daita** 大きさ
nova 新しい → **novata** 新しさ、新規性
huri 解放された、自由な → **hurita** 自由

-sme

特定の方法で行動または思考する傾向があるか、特定の政治・社会思想、もしくは宗教に従う傾向がある人を表します。

alkol アルコール → **alkollisme** アルコール依存症
dei 神 → **deisme** 有神論(1つまたは複数の神の存在を信じる考え)

-sta

dei 神 → **deista** 有神論者(1つまたは複数の神の存在を信じる者)

-kan

作業場所

sapatokan 靴屋
karikan 工場
kitabukan 図書館